

～前号より～

インドネシアの文化と日本

No.2

クレアでは自治体の海外経済活動に対して、より効果的な支援を行うため、経済交流課に経済アドバイザー（商社 OB）を配置しています。海外経済活動に必要な基本情報から、輸出入業務や海外でのイベント展開、商談を行う際の注意点などの個別具体的なアドバイスまで、専門的見地からの助言を行っています。どうぞご活用ください。



(クレア経済アドバイザー 小笠原 正広)

2. インドネシアの宗教と習慣



JAL 情報誌 5 月号”パティックの古都に行く”より

「多様性の中の統一」（ピネカ・トゥンガル・イカ）は、まさにインドネシアそのものであり国是でもある。そしてまた、インドネシアの歴史・文化・政治・経済等すべてを語る出発点である。それは、インドネシア人が持っているあらゆる宗教、伝統、習慣、文化を一つのものに調和させ、融合させようとする柔軟性を持ち合わせている国民性を如実に示している。例えばインドでは、仏教のブッダとヒンドゥー教のシバ神はお互いに相容れず今も対立しているが、インドネシアではヒンドゥー教と仏教は融合し、協調し、繁栄している。今日でもジャワ島やバリ島ではシバ神とブッダを同時に信仰する多数の信者がいる。インドネシアではヒンドゥー教、仏教の影響を受けた後、イスラム教、キリスト教そして西洋文化やあらゆる思想が入って来て、外来文化の影響を受け続けてきたことは、近代の歴史から明らかである。それらと相互に混じり合い融合しながら古来のインドネシアの土着の文化や価値観が生き続けた事も事実である。そしてそのため、インドネシアでは、本来の宗教と違い、独特の形や性格をもつ信仰、行動に変容してきていると言えるのである。すなわち、いかなるものも絶対的に白、黒というものではなく、常に白と黒の配合色である。例えば、イスラム教を例にとるとインドネシアの海岸線の近いところでは、非常に強いアラブの影響を受け、マラッカ海峡を通過して海から伝播してきたことから、

イスラム教も内陸深く入ればそれだけ薄められている。内陸部のジャワ人のイスラム教徒はヒンドゥー教の「マハーバーラタ」に登場する、醜いが超自然能力を備えた道化師セマルが、ジャワの守護精霊であると信じているのである。



プランパナン寺院 (<http://www.garudaholidays.jp/hotels/jog.html>)

キリスト教もジャワ島各地でジャワ化されている。またこれらの地方ではイスラム教と仏教の両方を信じているという人も沢山いる。スマランに中国の鄭和（ていわ）を祭った「三宝公（さんぼうこう）寺院」がある。鄭和とは明朝の時代(1402 年～) に 7 回にわたり 62 隻の軍船を率いて中国とインドネシアの間を往復し、明との交易に功績を残したイスラム教徒の海軍提督である。この寺院は中国系イスラム教徒のインドネシア人が住職として保護管理を行っているという。とはいえ、インドネシアではイスラム教がやはり絶対なものである。インドネシアの約 90% の人がこのイスラム教を支持している。そしてインドネシア人にとっては、毎日の生活がこの宗教と結びついている。日本人はよく「宗教とはあまり関係はない」と言う人が多いが、これはインドネシア人にとって極めて驚くべき発言である。日本人



鄭和提督を祭る三方公寺院 (<http://www.geocities.jp/>)

は仏教か神道を信じていると疑わない。そして日本人もまた本質的にはインドネシアと同様、生活の中ではキリスト教や仏教、神道の習慣を受け入れやすい民族なのかもしれない。これらの寛容の精神はインドネシアの国民性に近いものがあると筆者は思う。したがって、インドネシアでは、間違っても、自分は“無神論者”と断言してはいけない。インドネシア人にとっては信じられない事であり、人間として信頼を得る事はないと言っても過言ではない。

筆者の経験として、ある裁判の証人として出廷したことがあるが、証言の前に必ず信じる宗教の神の前にて“宣誓”をさせられるが、筆者の場合は“仏教”を選択し、裁判所の中のお堂の中の仏陀に線香を捧げ、裁判所職員の立ち会いのもと、仏陀の前で“インドネシア語”で真実を述べる事を誓わされた事を思い出す。

インドネシアの文化の歴史をまとめると下記のような流れとなる。

- ① 前ヒンドゥー期 : 魔術が盛んな時期で、おおよそ 1 世紀初め頃まで
- ② ヒンドゥー教、仏教の影響が強かった時期 : 1 世紀初めから
- ③ イスラム教の影響が強かった時期 : 13 世紀から
- ④ 西欧国家の思想と文化、宗教の影響が入って来た時期 : 16 世紀末
- ⑤ 日本の影響を受け始めた時期 : 17 世紀初めより

～次号へ続く～

クリア経済アドバイザー <http://www.clair.or.jp/j/economy/3/>